石橋正二郎

久留米大学留学生別科
けやき組 223BA01
楊益欣

１.はじめに

私は 2023 年 4 月に中国の北京市から久留米に来た。そして、現在、久留米大学留学生別科で日本語を勉強している。

久留米市に来る前、ブリヂストンというタイヤ界の大手企業であることを多少知っていたが、久留米市に来て、久留米市、特に久留米大学とブリヂストンの強い繋がりを感じ、ブリヂストンの創始者―「石橋正二郎」という企業家と久留米市の絆をさらに知りたく、企業と町の共生関係について探りたいと思った。

今回、修了レポートで久留米の魅力について調べることになり、「石橋正二郎」について調べ、「石橋正二郎記念館」を訪ね、インタビューを行った。

2.背景

「石橋正二郎記念館」のホームページによると、石橋正二郎記念館は、石橋文化センター開園 60 周年を迎えた 2016 年 11 月に、石橋美術館別館を改修し、公益財団法人石橋財団より久留米市に寄贈されたもので、記念館では、その芸術文化の拠点としての変遷と、石橋正二郎の歩みやひととなりを伝える様々な資料を紹介しているとのことである。

石橋正二郎記念館は西鉄久留米からバスで 8 分ほどで、文化センター前のバス停で降りたら、到着する。あるいは、久留米大学から西鉄久留米行きのバスで約 8 分で着く。

この「石橋正二郎記念館」という施設は、開館時間が 10 時から 17 時まで(入館は 16 時半まで)で、休みは、月曜日、年末年始と展示替期間である。そして、料金は、一般、シニア(65 歳以上)、大学生が 300 円で、高校生以下が無料である。また、久留米市美術館（本館）の入館券の半券を提示した場合、無料で入館できる。そのほか、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳又は療育手帳等の交付を受けている方とその介護者 1 名は、無料であ

る。さらに、久留米大学は石橋文化センター・久留米市美術館のキャンパスパートナー校であるため、久留米大学の学生は久留米市美術館に無料で入館できる。

このように、「石橋正二郎記念館」は久留米市民への配慮があり、久留米市に貢献があるということがわかる。

3.インタビュー

2023 年 12 月 26 日に石橋正二郎記念館の美術館担当事務局次長の後藤純子さんにインタビューをした。質問と回答は次の通りである。

質問 1：石橋正二郎氏の後継者はなぜ久留米市で記念館を設立したかについて教えてください。

答え 1：後継者というのは、今、石橋家の三代目の方です。この石橋記念館は、もともとは、この久留米市美術館で、元は、石橋美術館と言われていたんです。三代目の理事長をしている石橋財団という公益財団法人が、前は、美術館を管理し、運営していたんです。2006 年に、文化センターが、開園 60 周年を迎えたときに、それまで、石橋財団が運営していた美術館を久留米市に、運営をお願いしたいと石橋家の三代目の方から話があり、美術館の運営を財団から久留米市に返還することになりました。久留米市としては、石橋財団の創立者でもあり、ブリヂストンの創業者でもある正二郎さんの功績を遺し、そこに行けば、正二郎さんのことがわかるような記念館を建ててほしいことを久留米市の方からお願いし、建ててもらいました。

質問 2：この記念館ではどのような石橋正二郎氏の人物像を紹介したいですか。

答え 2：石橋正二郎氏は、「ブリヂストン」という、世界に名立たるタイヤの会社を創業した人物で、実業家です。その実業家として久留米大学に敷地と建物の建設費を提供したり、久留米市の発展のために、兄の徳次郎と久留米市に文化センターだけではなく、公園にも寄付したりしました。出身地である久留米市の発展を惜しみませんでした。また、福祉や教育

にも非常に尽力した人で、美術のコレクターとして、様々な国内外の美術品を収集し、美術館を建て、美術家としての一面もある人物でした。

質問 3：今のブリヂストンは石橋正二郎氏のもとで、久留米市のどの方面において貢献していますか。
答え 3：株式会社ブリヂストンの方に直接伺った方がいいかと思います。関わりとしてはあるんですけれど、企業としての立場がないので、答えられません。

質問 4：久留米市にあるこの記念館が久留米市の特徴と石橋正二郎氏の繋がりを表すため、どのような取り組みをしていますか。
答え 4：石橋正二郎記念館、久留米市から補助金をもらっている久留米文化振興会という財団ですが、正二郎氏について、記念館などを案内したり、ブリヂストンの新入社員の方の研修や取引先のお客様に案内をしています。

質問 5：なぜ石橋正二郎氏は日本足袋株式会社を成功させた後にタイヤ界へ進出しましたか。
答え 5：正二郎氏は、世の中に役に立ち、発展するような事業をやりたいと強い意志を持ち、17 歳で家業を継ぎました。足袋を専門に作る会社で、足袋の下にゴムの底を貼り付ける地下足袋を発明します。そして、労働者の履物として、足袋の下につけたそのゴムの技術が、次の商品に何かできないかと考えました。これからは自動車の時代が来て、自動車が増えると予見しました。当時輸入品のタイヤしかないため、国産化し、安定した供給ができるようにしました。それから、安く、多くの人に使ってもらえる高品質のタイヤを作るため、大変な苦労と研究を重ねました。

質問 6：石橋正二郎氏は久留米市のどの利点を利用し、企業を拡大させましたか。

答え6：飯塚や大牟田などの近いところには、田んぼがあり、労働者にとって、非常に役に立つゴム靴を生産しました。

質問7：コロナで見学者が少なくなった時、どのようなことをしましたか。
答え7：石橋正二郎記念館で、音声ガイドがあり、日本語と英語などの多言語があり、QRコードを使うと、自分のスマホで11個の音声が聞けるようになりました。また、動画配信サイトで動画を見ることができます。

質問8：今後、コロナ時期の経験を重ねたうえで、何か新しい視野と技術を使い、石橋正二郎氏のことを海外に紹介する予定がありますか。
答え8：海外までまだ行かないです。

インタビューをする前は石橋正二郎氏は久留米市の利点を利用し、企業を拡大させたと考えていたが、このインタビューで石橋正二郎氏のおかげで、久留米市のゴムに関する産業が発展してきたということが分かった。

4. 考察および提案

石橋正二郎氏は久留米で著しい貢献があり、偉人だと思う。そこで、さらに石橋正二郎氏の功績を世の中の人々に紹介してはどうだろうか。例えば、ブリヂストンの国内外の取引先に石橋正二郎氏についてのパンフレットを渡したり、ホームページに英語だけではなく、中国語、韓国語とベトナム語などのアジアの国々の言語も加えてはどうだろう。

そうすれば、市民も外国人も石橋正二郎氏の功績に感心し、久留米市をより愛するのではないだろうか。

5.まとめ

　今回のインタビューを通し、石橋正二郎氏について知ることができた。特に、石橋正二郎氏は「世の人々の楽しみと幸福の為に」という理念のもとに、事業をはじめ、福祉と教育にも熱心に尽力したことが分かった。事業といえば、実家の足袋屋から、地下足袋とゴム靴へと発展させ、タイヤ界に進出し、事業を次第に拡大した。一方、久留米大学を創立支援し、石橋美術館も建設寄贈した。このような、石橋正二郎氏の功績に感心し、ブリヂストンと久留米市の繋がりについて一層理解が深まった。

参考文献

公益財団法人 久留米文化振興会（2016）「石橋正二郎記念館」

https://www.ishibashi-bunka.jp/kinenkan/　（2023 年 12 月 16 日閲覧）

写真 1　石橋正二郎氏像
石橋正二郎記念館の美術館担当事務局次長の後藤純子さんと一緒に
（2023 年 12 月 26 日撮影）撮影許可あり

写真 2 石橋正二郎記念館
（2024 年 1 月 11 日撮影）撮影許可あり